

関西の景気ピックアップ【雇用関連（26 年 5 月）】

- 26 年 5 月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は 2.9%（原数値）と、前年比で 0.2 ポイントの上昇となった。変化の内訳は、就業者数が前年比で 15 万人の増加で、失業者は 3 万人の増加、非労働力人口は 19 万人の減少となっている。なお、失業者数の増加は 8 か月連続。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、26 年 5 月は 1.08 倍（季節調整値）と前月比で横ばいとなった。足元の動きについては、25 年 5 月の 1.16 倍をピークに緩やかな低下傾向が続いている。
- 直近の雇用市場では、深刻な人手不足の状況に変化はないものの、有効求人倍率の低下傾向がみられる。この動きを有効求人数と有効求職者数の動きに分けてみると、有効求職者数はほぼ横ばいの動きであるため、主に有効求人数の減少によるものとみられる。一方、求人数の動きを新規求人と有効求人に分けてみると、ともに減少傾向が続く中、有効求人以上に新規求人の減少が目立ち、この動きが求人の減少傾向の発端となっていることが分かる。

